

# 「尖閣諸島等情報センター」構想

(愛称：アクションセンカク)

2022年1月吉日

安全保障議員協議会 一般社団法人 国際平和戦略研究所

# 情報センター設立目的と意義

日本固有の領土である尖閣諸島が日本の施政権下にあることを周知させる上で、尖閣諸島とその周辺海域の日常がより日本の国民に対して身近な情報として接する機会を継続的に提供することによって、より多くの人々に実情を知ってもらうことで、施政権下にあることを様々な形で具現化していくことを促進するのが本構想の原点。

例えば、施政権下にあることを対外的に示す上で、自衛隊及び海上保安庁以外の様々な省庁の努力によって実現できるアイデアがある一方、どれも実現されていない現状に対して「何故」と素朴な疑問を日本国民が持つことも重要と考える。

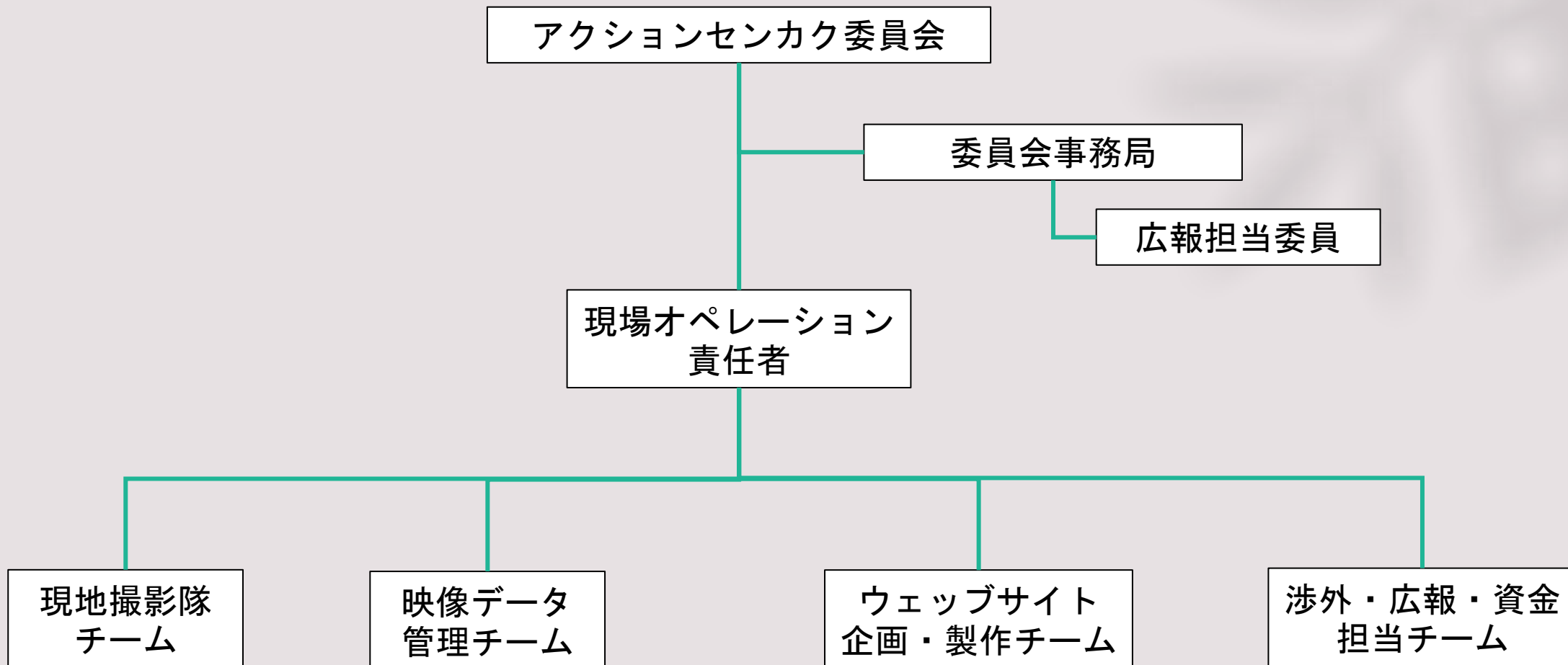
- 灯台・気象観測所等の設置 (国土交通省)
- 漁船避難場所の設営 (国土交通省)
- 島の生態系や環境の調査 (環境省)
- 周辺海域の漁業資源調査 (農林水産省)
- 友福丸・一心丸の戦時遭難事件の遺骨収集や慰霊祭等の実施(厚生労働省)
- 老朽化した石垣市標柱等の建替え (石垣市)など

民間のイニシャチブ、努力と資金力によって、客観性が高く、事実に基づく最新の映像データを高頻度で継続的に提供し続けると共に、映像データのアーカイブ化によって、より多くの方々が日本固有の領土である尖閣諸島がそうあり続けるために何ができるのかを考える機会を提供することが本構想の狙いである。注目が集まった段階で、尖閣諸島にまつわる様々な歴史秘話やエピソードなども関係者の証言を集めて、番組形式での情報提供も考えて行く所存。

# 運営主体について

- 一般社団法人 国際平和戦略研究所(CISS)の内部分科会として組織を立上げ、民間側の趣旨賛同者からの幅広い支援を得て、本構想の運営に当たります。
- 安全保障議員協議会は、民間主導組織で対応しきれない様々な課題を克服していく上での精神的な支柱として支援を頂く予定です。
- 分科会での最高意思決定機関として「アクションセンカク委員会」を設置し、委員長に久間章生初代防衛大臣に就任頂きます。
- 同委員会のメンバーは2021年7月中に取り決める予定
- 同委員会事務局長は鍋田俊久氏
- 同委員会専門アドバイザーには学識経験のある有識者の山口昇先生、畠山圭一先生・松村昌廣先生に就任頂く予定です
- アクション・センカク現場オペレーション責任者及び現場対応をする上で必要となる専門業者に就いては2021年8月中に目途を着ける予定

# 運営体制(案)





# 運用構想の概観



- ドローンを高度120mで飛行させた場合の水平線距離は約84km。
- 飛行高度が150m未満の場合は飛行許可不要

## 全体的な位置関係



情報配信



撮像データ処理、  
アーカイブ化等

# 運用計画要旨

- 撮影ポイント、撮影頻度、一日当たりの撮影時間と時間帯等は要検討課題(利用者ニーズを踏まえる必要あり)
- 映像データのデータベース化と、利用の利便性を勘案したウェブサイトの構築
- シンクタンクやメディアとの映像データの共有と連携
- 運用計画に関わる国や地方自治体の許認可等の要否の確認
- 現地協力者等(石垣市議会関係者、石垣漁協関係者など)との連携
- 広報戦略、法務アドバイザー等の必要性検討
- SNS、ユーチューバー、ブロガー等の活用検討
- その他

# 運用経費見積り

1. 現地撮影隊に関わる諸経費
2. 船舶運航経費
3. ドローン等による撮影経費
4. 尖閣諸島からのデータ伝送、画像処理等の経費
5. セキュアサーバーによるデータアーカイブ化に関わる経費
6. ウェブサイトの管理運営、掲載情報の企画・製作等に関わる経費
7. 情報センター及び理事会・事務局運営等に関わる諸経費
8. その他経費

# 運営資金計画

1. 一般からの寄付金募集
2. ウェブサイト広告宣伝収入
3. 東京都による尖閣諸島買取計画寄付金の活用
4. その他